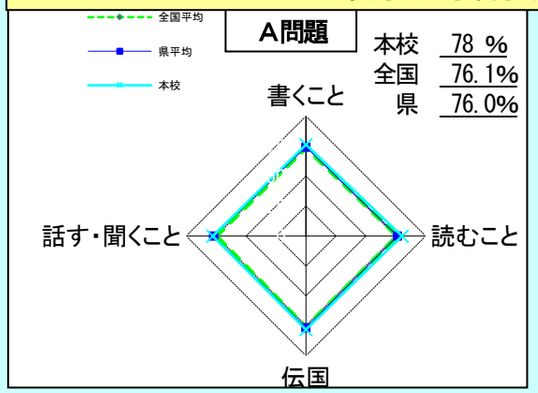
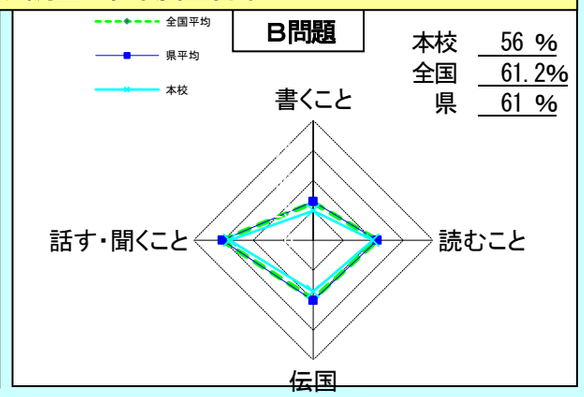
別紙４

指導方法等の改善計画について　〔国語科〕

呉市立音戸　中学校

全国学力・学習状況調査　本年度正答率





重点課題

【課題１】　「『天地無用』という言葉を誤った意味で解釈してしまう人がいる理由を書く」（目的に応じて文章を読み，内容を整理して書く力　設問Ｂ１三）（正答率 6.3%）。条件①（「無用」の意味の変容）については記述しているが，条件②（「逆にすること」が省略されていること）への記述がない生徒が 27%いる。

【課題２】　「話のあらすじを学級の友達にどう説明するかを書く」（相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く力，設問Ｂ３三）で，無解答の生徒が 17.5%（11 人）いる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　書き手の目的や意図に合わせて，情報を整理・選択して読み取る学習と併せて，自分の考えを支える根拠を明確にあげて文章を構成・表現する活動を通して，書き手の目的や意図を効果的に表現する構成や展開，表現方法について考える学習活動を取り入れる。

【課題２】　伝える相手や，書く内容などの条件をどのように読み取るか，またその条件に沿ってどう考え，どう書けばよいのか，「型」を用いて書き，相互評価しあう活動を「書くこと」の学習活動に設定する。

※小中一貫した取組については、誰に，何を，どのように伝えるのか，目的や意図を明らかにした「書くこと」を，あらゆる場をとらえて指導する。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		全学年 中間試験		２年 調査問題			１年 H29「基礎・基本」
目標値		65%		65%			65%
実施後数値		１年 67% ２年 58%		71.2%			75.6%

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		全学年 中間試験	全学年 期末試験		３年 学年末試験	１，２年 学年末試験	２年 H30「全国学力」
目標値		65%	65%		65%	65%	65%
実施後数値		１年 67% ２年 58%	１年 43% ２年 60%		63.7%	１年 58% ２年 55%	69.5%

来年度に向けて

目的や意図，伝える相手を意識して情報を整理し，整理した内容を書く活動を，課題発見・解決学習と関連して位置づけ，重点的に取り組んでいきたい。

別紙４

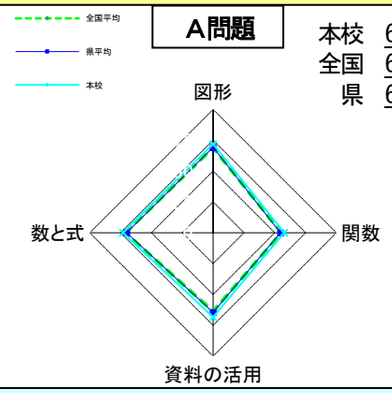
指導方法等の改善計画について　〔数学科〕

呉市立音戸　中学校

全国学力･学習状況調査　本年度正答率

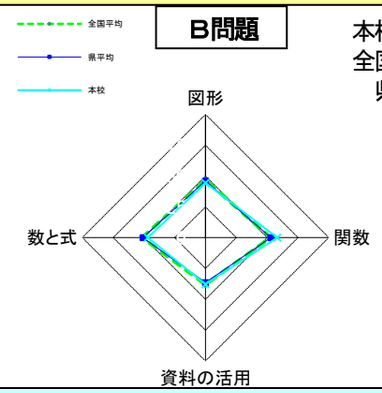
A問題

本校　69.0%
全国　66.1%
県　66.0%



B問題

本校　46.0%
全国　46.9%
県　46.0%



重点課題

【課題１】多数回の試行結果から得られる相対度数が確率であることの理解度が低い。１枚の硬貨を多数回投げるときの表が出る相対度数の変化について正しい記述を選ぶ問題の通過率が低い。
（通過率 25.4%　無解答率 3.2%）

【課題２】事象を数学的に解釈し問題解決の方法を説明することに課題が見られる。関数において，グラフから情報を読み取り，それを用いて問題を解決する方法を記述する問題の通過率が低い。
（通過率 14.3%　無解答率 34.9%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】相対度数と確率では，同様に確からしくない場合の実験を行い，起こりやすさを相対度数で実際に計算する活動を行う。

【課題２】関数では，グラフと式を用いて解決する方法を，数学的に記述したり，説明する学習を多く取り入れる。

※小中一貫した取組については，算数，数学の時間だけでなく総合的な学習の時間や社会科など様々な学習場面をとらえて，グラフを読み取ったり書いたりする学習を仕組む。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		1,2 年 中間試験	1,2 年 期末試験			1,2 年 学年末試験	1 年 H29「基礎・基本」
目標値		60%	60%			60%	65%
実施後数値		1 年 47.4% 2 年 59.8%	1 年 50.0% 2 年 64.9%			1 年 53.6% 2 年 41.6%	54.3%

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		2,3 年 中間試験	2,3 年 期末試験		3 年 学年末試験	1,2 年 学年末試験	2 年 H30「全国学力」
目標値		60%	60%		60%	60%	55%
実施後数値		2 年 58.6% 3 年 55.8%	2 年 65.1% 3 年 50.4%		59.3%	1 年 47.4% 2 年 50.4%	50.1%

来年度に向けて

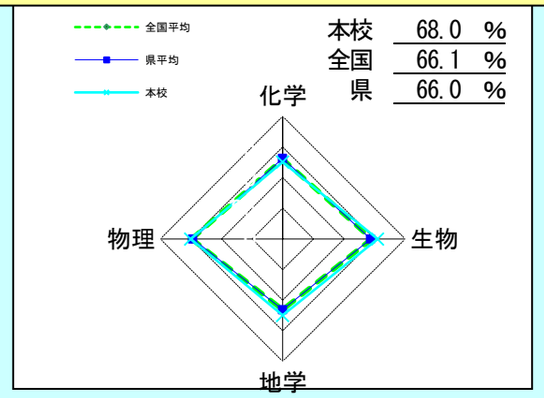
記述問題の通過率を向上させたい。そのために，事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を説明する活動を重点的に取り組む。

別紙４

指導方法等の改善計画について　〔理科〕

呉市立音戸　中学校

全国学力･学習状況調査　本年度正答率



本校	68.0　%
全国	66.1　%
県	66.0　%

重点課題

【課題１】「オームの法則を使って，抵抗値を求める」ことに課題がある。
（大問６－（２）正答率 36.5%　無解答率 22.2%）

【課題２】「植物を入れた容器の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘する」ことについて，湿度が上がる要因となる「土」や「水蒸気」・「蒸発」を記述できない生徒が 41.3%であった。
（大問９－（２）正答率 15.9%　無解答率 22.2%）

重点課題に対応した改善指導内容及び方法（授業）

【課題１】　「オームの法則」を始めとする既習事項の定着を意図して，小テストを実施し，「知識」の活用方法を演習する。

【課題２】　実験計画を立てる際，教師が方法を全て提示するのではなく，生徒に考えさせる活動を設定し，自分で原因となる要因を考えさせるようにする。また実験結果から見られる様々な現象が，様々な要因で派生することを発展的課題として，確認していく。

※　小中一貫した取組については，観察結果・実験結果を基に筋道立てて考察し，表現させる。

【課題１】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		２年 中間試験	２年 期末試験			２年 学年末試験	２年 H29「基礎・基本」
目標値		60%	65%			65%	70%
実施後数値		１年　57.1% ２年　67.3%	１年　61.3% ２年　53.7%			１年　67.1% ２年　51.5%	68.7%

【課題２】	９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
学年・方法		１・２年 中間試験	１・２年 期末試験			１・２年 学年末試験	１・２年 H30「全国学力」
目標値		40%	50%			55%	60%
実施後数値		１年　41.1% ２年　47.0%	１年　49.2% ２年　50.5%			１年　50.7% ２年　51.2%	57.3%

来年度に向けて

基本的な用語や科学的な概念を身に付けさせるために，計画的に小テストを実施する。

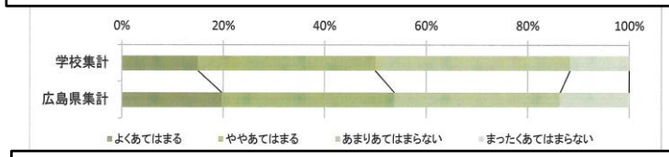
また，全員が基本を理解することができるように，授業改善を進める。

別紙４

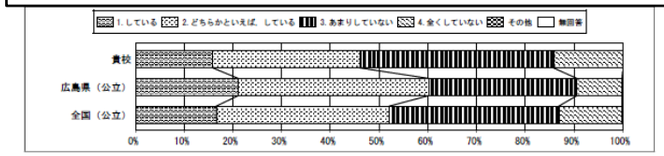
２　質問紙調査　（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）　（全国学力・学習状況調査：生徒質問紙調査）

（１）生活・学習

自分で勉強の計画を立てている。



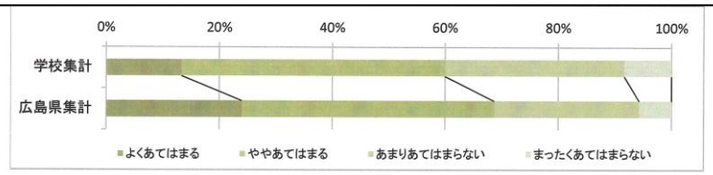
家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか



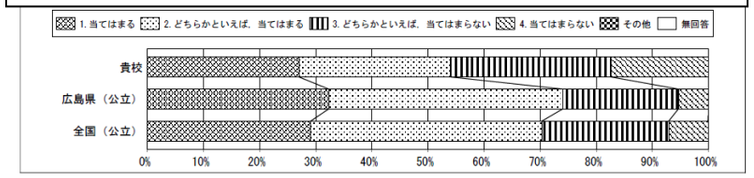
	生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
基礎・基本	「自分で勉強の計画を立てている」の肯定的回答率が低い。（本校50.0%，県平均53.7%）	サオンドノートによる計画設定の習慣化と，定期試験期間中の学習計画表活用の取組を通して，より一層の学習習慣の定着を図る。	2	60%	学習・生活に関する意識調査	11月末	48.2%	-1.8
全国	「家で，自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が低い。（本校46.1% 県60.2&全国52.2%）	個別面談を柱として個々の進路指導を丁寧に行い，個々の目標に応じた指導・助言を積み重ねていく。	3	60%	学習・生活に関する意識調査	11月末	58.7%	+12.6

（２）教科

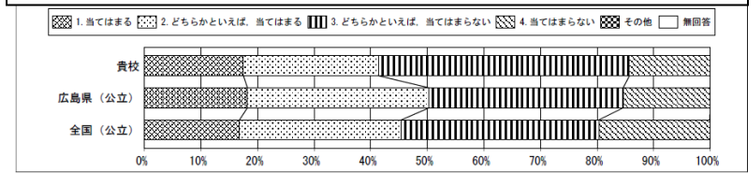
国語の授業では，伝えたいことの中心をはっきりさせ，組み立てを考えて文章を書いています。



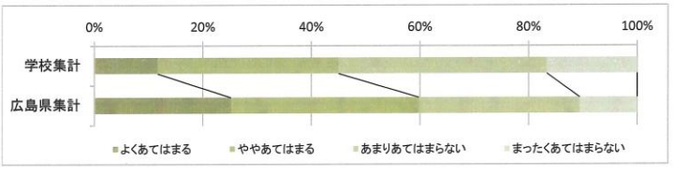
数学の問題の解き方が分からないとき，諦めずにいろいろな方法を考えている。



理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。



英語の授業では，自分の考えや気持ち，事実などを英語で話しています。



		生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状値からの伸び
国語	基礎・基本	国語の授業では，伝えたいことの中心をはっきりさせ，組み立てを考えて文章を書いています。（本校61.7%，県72.2%）	授業で，伝える相手や目的，伝えたいことを意識させて書く取り組みを積極的に取り入れる。	2	70%	学習・生活に関する意識調査	11月末	60.7%	-1.0
数学	基礎・基本	「解き方や考え方を話し合うときに理由をあげて説明しています」の肯定的回答率が低い。（本校38.3%，県57.6%）	授業で解き方や考え方を根拠や順序立てて説明させる場面を積極的に仕組む。	2	50%	学習・生活に関する意識調査	11月末	41.1%	+2.8
	全国	「数学の問題の解き方が分からないときは，諦めずにいろいろな方法を考えますか」の肯定的回答率が低い。（本校54.0%，県74.0%，全国70.3%）	解き方の方法や手順を確認する場面を取り入れた授業を行う。	3	60%	学習・生活に関する意識調査	11月末	69.0%	+15.0
理科	基礎・基本	「理科の授業では，観察や実験を行うときは，自分で観察器具や実験器具を使っています。」の肯定的回答率が８０%に達していなかった。（本校75.0% 県81.5%）	役割分担が特定の生徒に集中しないように，実験ごとに役割を換え，すべての生徒が主体的に実験に臨めるようにする。	2	80%	学習・生活に関する意識調査	11月末	60.7%	-14.3
	全国	「理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」の肯定的回答率が低い。（本校 41.3% 県50.3% 全国 45.4%）	学んだことを生活の中での事象に「置き換える」活動を取り入れる。	3	70%	学習・生活に関する意識調査	11月末	48.5%	+7.5
英語	基礎・基本	「英語の授業では,自分の考えや気持ち,事実などを英語で話しています。」の肯定的回答率が低い。（本校45%　県59.8%）	自分の意見や考えを話す機会を定期的に導入して，英語を話す機会を増やし，正しく事実を伝える機会を増やしていく。	2	60%	学習・生活に関する意識調査	11月末	48.2%	+3.2